

## 新年ご挨拶



館長 かいづま 海妻 のりひこ 矩彦

新年明けましておめでとうございます。21世紀も3年目に入り、次第に21世紀の初頭がどのような展開を見せるかが段々明らかになりつつあるような気がしております。わが国の内外を取り巻く諸情勢はどうも穏やかに経過しそうなもので大変心配ですが、今年の干支の羊にあやかって平穏に進むことを心から願っています。

東北新幹線が昨年12月から青森県八戸市まで伸びて東北新時代が幕を開けましたが、その余勢をかって本県も各方面で大きく躍進するようでありたいものです。県立博物館においても新しい事業を積極的に取り入れながら、県勢の発展に大いに寄与したいものです。昨年4月からは学校週五日制が本格的に導入され、博物館も学校教育に積極的に関わることが求められるようになりましたが、今年からは昨年までの実施計画が多少なりとも評価を受けるようになり、より一層の効果を上げることが地域社会から求められる

ようになるでしょう。これらも生涯学習社会への対応の一環としてとらえ、社会からの期待に十分応えられるよう努力したいと思っています。

さて、ここで私自身の研究に関わることですが、昨年は面白い結果が得られましたので、私自身の紹介の意味も含めて内容を少し述べさせていただきます。

私は以前は岩手大学農学部を務めておりましたが、その頃はダイズの種子タンパク質の栄養価の遺伝的改良をテーマとして研究しておりました。その研究の一環としてその種子タンパク質を消化する酵素の働きを阻害する物質であるトリプシン・インヒビター（これもダイズの種子に含まれています）という一種のタンパク質の遺伝的変異に関する研究もしていました。このたびの新しい結果と申しますのは、そのトリプシン・インヒビターを構成する181個のアミノ酸の配列順序が従来のものとは異なったものが見出されたということです。詳しいことを書くと大変長くなるので、ポイントだけに絞ります。

そのトリプシン・インヒビターには主な2種のものが知られているのですが、それらのアミノ酸配列順序を比較して見ますと8種のアミノ酸が異なっていることが知られておりました。私がかねがね8種のアミノ酸の違いは数としては大きすぎると考え、既に知られている2種のトリプシン・インヒビターのほかに未知のもっと少ない数のアミノ酸の配列順序の違いで区別されるタイプが隠れているのではないかと思います。学生にはそのような変異を有するものを探ることを研究テーマとして与えておりました。その結果、既知の2つのタイプと互いに4種のアミノ酸配列順序が異なる新しいタイプのトリプシン・インヒビターが発見されたのです。これは既知の2つのタイプの中間に位置するも

ので正に予測していたものでした。これはこの物質の遺伝的変異を調べるために従来から使われていた電気泳動法という方法では検出が困難でしたが、方法を変えてその物質の生産を支配する遺伝子を取り出してDNA塩基の配列順序を調べるということにしたために発見に至りました。この方法を適用すれば更に新しい変異（例えば2種類のアミノ酸でその配列順序が異なるもの）も見つかるのではないかと考えています。

新しいタイプのものを実際に発見したのは、私の昔の大学院学生で今は中国の農業科学院に所属している王 克晶博士ですが、日本学術振興会の資金を得たので1年ほど前から再び岩手大学農学部に研究のために戻って来て、昔やっていた研究に再び取り掛かり遂に発見に至ったのです。彼からその報告を受けたとき、私は久しぶりに研究者としての興奮を覚えました。

さて、本博物館は一昨年10月に県立美術館が創設されたのを機にそれまで並置されていた近代美術部門がなくなり、その代わりに自然科学部門の充実を図ることが新構想の一部として考えられています。そういうことを含め、従来からの人文科学部門との調和を考えながら、新しい県立博物館としてのリニューアルを果たすことが、私の館長としての最も重要な任務であり課題でありましょう。

最後に関係各位の益々のご発展とご健勝をお祈り申し上げます。